

# コンピューターはどのくらいうまく情報を探せるのか

## 国際評価のための情報アクセス技術の研究基盤と協調的研究の展開：NTCIR

### How Computers Can Effectively Search Information

#### Leveraging Information Access Technologies by Community-Based Evaluation in NTCIR

神門典子 (Noriko KANDO) 石川大介 (Daisuke ISHIKAWA) 世界中から31人の研究者

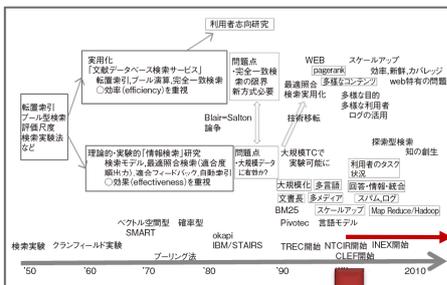
### 何がわかる？

- 情報アクセス技術の比較評価のための研究基盤を提供します。
- 研究がスピードアップします。
- 評価実験が容易になり、検証→改善のサイクルが早まる。多数の研究チームの多様なアプローチから相互に学びあう。
- よりよい検索システムを実現するために、研究コミュニティの形成を支援しています。

### どんな研究？

17カ国の120以上の研究チームと一緒に、情報検索、要約、質問応答、情報抽出、テキストマイニング、意見分析、機械翻訳などの有効性を検証するために、実験データセットの構築、比較評価、テスト手法の研究をしています。

## 研究状況



### NTCIRのこれまでの歩み

NTCIR	1	2	3	4	5	6	7	8
年	'99	'01	'02	'04	'05	'07	'08	'09-
利用者作成コンテンツ (UGC, CGM)						■	■	■
モジュール評価						■	■	■
特定ドメインの検索				■	■	■	■	■
質問応答 (QA)				■	■	■	■	■
要約・統合				■	■	■	■	■
Web				■	■	■	■	■
言語横断検索	■	■	■	■	■	■	■	■
テキスト検索	■	■	■	■	■	■	■	■

これまでの参加登録チームのべ数：  
合計 948 チーム

NTCIR成果報告会の様子



テストコレクション  
利用申請者：合計 3401名  
現在利用中：2205名

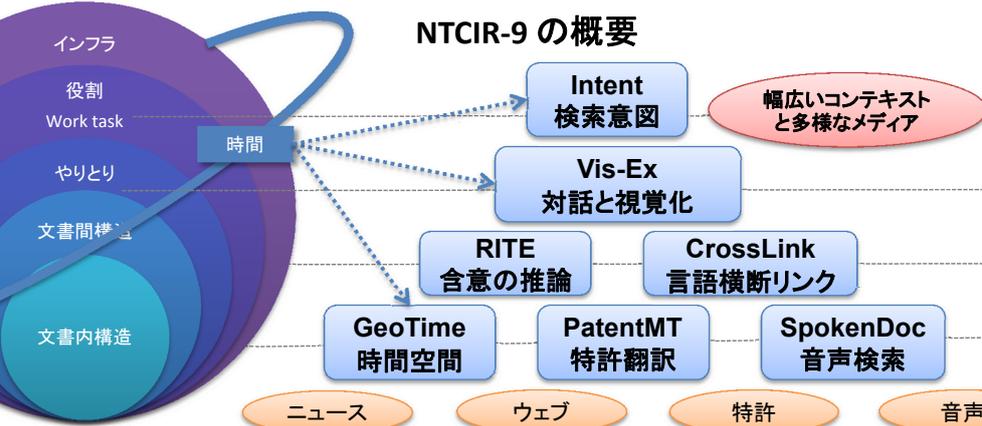
今後は...

- 人工頭脳プロジェクト：高度複合情報アクセスシステムのためのコンソーシアム型実験研究基盤
  - 共通基盤と個別ニーズ
  - 評価・検証・ベンチマークのための研究基盤
  - ベストプラクティス
  - 個別課題を評価したいという多様なニーズに対して→評価手法のベストプラクティス
  - 探索型検索 Exploratory Search
  - 検索のパラダイムシフト
- 対話的・探索的信息アクセス技術の評価基盤  
1列の検索結果リスト→より多面的な側面をカバーし、次のアクションのための選択肢を提供
- コミュニティと集合知
- 一人がつくった絶対正解ではなく、多くの利用者の意見の相対で評価する環境

### NTCIRの活動概要

- テストコレクション(実験用データセット)45公開
- 国際ジャーナル特集号4回、国際ワークショップ企画運営8回
- 国際会議における招待講演 50回以上
- Google ScholarでNTCIRに言及している論文：3730件

### NTCIR-9の概要



NTCIR-9 Task Selection Committee:  
Mark Sanderson (U Sheffield), Doug Oard (U Maryland), Gareth Jones (DCU), Fred Gey (カリフォルニア大), Charlie Clarke (Waterloo大), Noriko Kando (NII), Ian Soboroff (NIST), Sung Hyon Myaeng (KAIST), Hsin-Hsi Chen(台湾大), Tetsuya Sakai (MSR)

今までの主な参加団体：  
カリフォルニア大バークレイ、カーネギーメロン大、コーネル大、メリーランド大、スタンフォード大、MIT、SiCS、XEROX、Dublin City U、IBM、Microsoft、ヤフー、RMIT、ケンブリッジ大、グラスゴー大、韓国KAIST、国立シンガポール大、国立台湾大、I2R、中国科学院、清華大、NiCT、産総研、東大、京大、北大、奈良先端大、北陸先端大、筑波大、豊橋技科大、長岡技科大、NTT、日立、東芝、松下、リコー、FujiXEROX、JustSYSTEM、富士通研、NTTデータ、NEC、沖電気、など

